

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトル青い空		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業所における自己評価総括表作成日	令和8年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	平屋の為、室内がバリアフリーである事	駐車場から事業所へスロープになっており、事業所室内では段差がほとんどなくフラットになっています。 また、子どもも大人も一緒に清掃(台拭き含む)や整理整頓(片付け)を行う事でお互いに過ごしやすく安全な環境になるよう努めています。	駐車場が砂利の為、今後助成金などを活用し少しずつ整備を行いたいと考えています。
2	個別課題の内容が充実している事	サイトや参考資料を使用する場合もありますが、紙やフェルト、100円ショップで集めた部材などを使用し一人ひとりに合わせた課題セットを作成しています。手作りの為、破損しても本人と職員と一緒に修繕を行う事ができ、破損⇒修繕も経験の一つと捉えています。 また、日々のミーティングの中で職員一人ひとりが子ども達の日々の様子や課題の達成度について共有し、成長に合わせた月案での個別課題設定を行っています。	系統別の収納棚やファイルを作成し、職員が個別課題を提示するだけではなく、子ども自身がその日に行いたい課題を選択していく等、自己選択・自己決定の機会をより多く持つ事ができるようにしたいです。
3	広い自然豊かな土地にある事	敷地内では季節の草花が育ち、隣接する畑でも四季折々の野菜が実っています。芝山で身体を動かして遊んだり、野菜やベリーの収穫をしたり、五感を刺激しつつ楽しむ事で心身の成長を促します。 収穫した野菜やベリーは長期休暇中のおやつ(150円/食)としても提供しています。(野菜スープやケーキ、クッキーなど)	水瓶でメダカとエビを育てていますが、酷暑で弱ってしまう為、子ども達と一緒に考えながら今後の生育環境を整えていきたいと思えます。
4	様々な年齢と関わる事	小学1年生から高等部3年生の子ども達だけでなく、隣接する事業所(就労継続支援B型事業所)や地域の方々、30代から70代の男女職員と様々な年齢・経験を有する人々と接する事で多様な経験を積み重ねていく事ができます。	隣接事業所(就労継続支援B型事業所)での実習体験などを高等部生を対象に行っていますが、今後は希望者を対象に中等部生へも広げていきたいと考えています。
5	感染症対策を遵守している事	手洗い(登所後、お出かけ後、食事前など)、検温、水分補給などを含めた感染症対策および日々の体調管理について、子ども達が自発的に実施できるよう個別課題の中に練習を織り込んでいます。 また、連絡帳などを通してご自宅、学校と様子を共有する事で子どもも大人も元気に過ごす事ができています。	令和8年度までは送迎車内はマスク着用としておりましたが、令和9年度より各ご家庭判断となります。 手洗い、検温、水分補給などを含めた感染症対策は継続し、風邪症状(発熱、咳、鼻水、くしゃみなど)が見られた場合のみマスク着用を促し、感染を最小限に止める事ができるよう努めます。
6	地域の方々の理解がある環境である事	屋外でのイベント開催や気分の高揚により、子どもも大人も大きな音や声が出てしまう事がありますが、「楽しそうですね」「子ども達が元気なのはいい事です」と温かい言葉をかけてくださる地域の方々に見守っていただいています。	年2回行っている地域連携推進会議の中で事業所の概要や行事の説明を行う事で、事業所の活動や福祉についての理解促進に努めております。 令和9年度は総合訓練(起震車や煙体験、消火器取り扱い体験など)に地域の方々にもご参加いただき、防災を学びつつ交流の機会を持ちたいと考えています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全員が参加できる活動の実施頻度が低い事	一人ひとりの得意な事や苦手な事、興味のある事や興味のない事も様々な中、小学生から高等部3年生の男女が全員参加し楽しむ事のできる活動の実施頻度が低い状態です。	春のエッグハントや初夏のベリー収穫、夏から秋の野菜収穫、春・秋の演奏会などを含め、子どもも大人も全員で楽しめる活動を少しでも増やしていけるように、職員一人ひとりの興味のアンテナ感度をあげて、行事や活動プログラムを提案する様に努めます。
2	HPやSNSの運用が低い事	支援と支援の為に準備時間（個別課題で使用する教具の作成や環境整備など）に多くをあてている為、広報への割り当て時間と人員が低い状況です。	現在作成している広報樹の実やリトルレターを活用し、法人や事業所の活動について公表していきます。
3	リトル保護者会（年度説明会）や樹の実後援会の活性化	同上	3月末に行っている年度説明会の開催日時を検討し、多くのご家庭に参加頂ける様に検討します。 縫製ボランティアや野菜収穫ボランティアなどを樹の実後援会へ依頼し、後援会と事業所の活動が活発化する様に努めます。
4	医療的ケア児への対応	知的障害、発達障害の就学児童の方を対象に支援を行い環境設定を行っている為、医療的ケア児の方を安全に受け入れる体制が整っていません。	医療的ケア児の方を対象とし運営を行っている事業所情報を収集し、ご家族から相談が入った際にはご提案できる様に努めます。